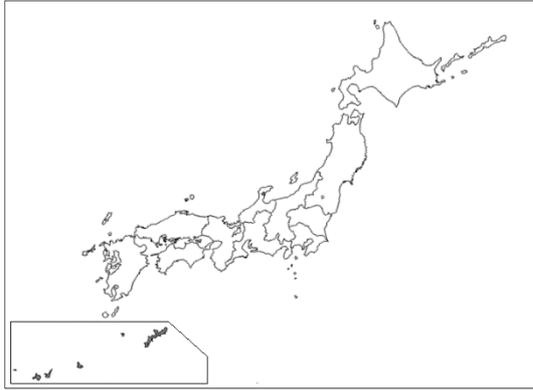


(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成29年2月）	今回（平成29年5月）	
住宅建設	大幅に増加	増加	

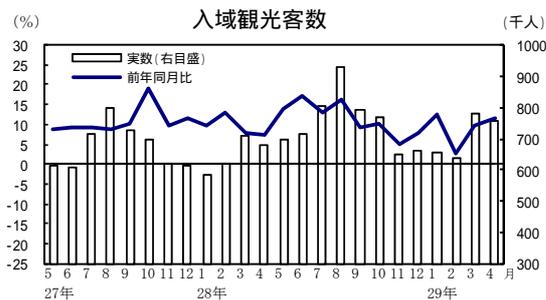
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客について、1月は、個人旅行を中心に各種商品の販売状況が好調だったこと等から、前年を上回った。2月は、スポーツキャンプ見学や桜祭り等各種イベントが多く、また3月は、春休みの旅行需要があったこと等から、前年を上回った。

外国客については、1月は、春節（旧正月）時期の旅行需要に伴う各主要国・地域から各航空会社によるチャーター便や航空路線の拡充があったこと、定期クルーズ船の寄港があり海路客が増加したこと等により前年を上回った。2月は、新規就航を含む航空路線の拡充があり空路客が増加したものの、春節（旧正月）前倒しの反動等から、全体として3ヶ月ぶりに前年を下回った。3月は、大型クルーズ船の寄港回数が減ったものの、空路客が増加したこと等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテル共に前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	29年3月
入域観光客数	2,526	2,081	2,069	759.2
(前年比)	12.9	7.8	8.2	11.4
ホテル稼働率	88.8	78.2	82.6	-
(前年差)	1.0	1.6	2.2	-

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(12) 沖縄

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

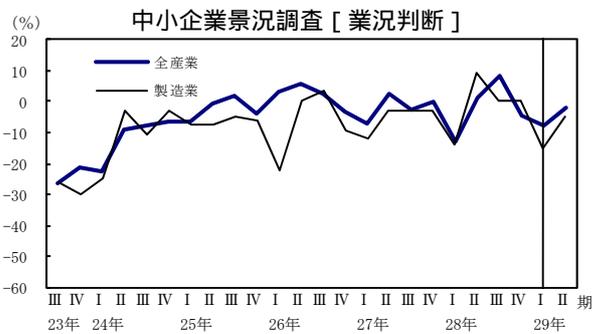
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。29年6月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

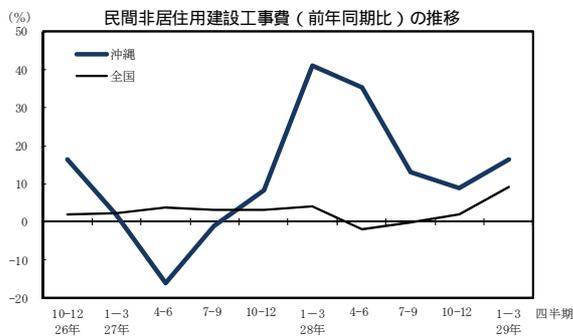


(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。29年II期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「為替がやや円高で推移し輸入商品の原価が安くなったため、売上が3か月前より増加した(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績見込み	29年度計画
全産業	26.7(3.1)	34.6
製造業	98.9(25.9)	1.1
非製造業	19.0(▲0.2)	40.6

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

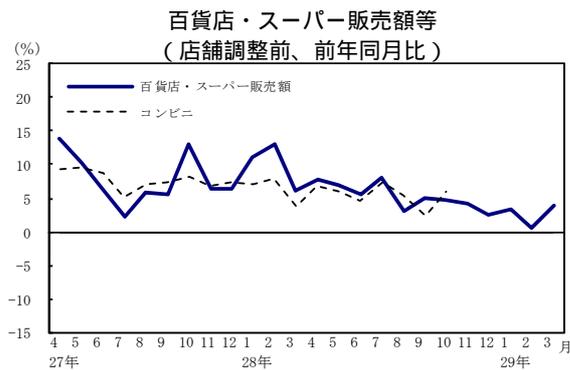
1月は前月比0.8%増、2月は同0.4%減、3月は同0.6%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額は、1月は食料品の売上が好調なことや春節で訪れた外国人観光客の消費が好調だったこと等から前年を上回った。2月は催事効果や外国人観光客の消費が好調だったこと等から前年を上回った。3月は催事効果やひな祭りや合格祝い関連商材の売上が好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「4月に入り客数が減り、同時に販売量も落ちている。特に価格競争による同業他社への流出が増え厳しい状況である(通信会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

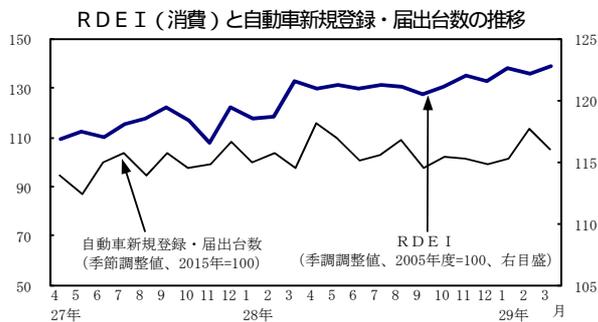


	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.8	0.8	▲ 0.4	0.6
百貨店・スーパー(*2)	2.7	3.4	0.7	3.8
コンビニ(*2)	17.5	20.0	14.7	17.8
乗用車(*3)	6.3	1.2	9.5	6.7
(季節調整値)(*3)	5.7	2.2	11.8	▲ 6.8

(備考) 1. 季節調整値前期(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)。コンビニは日本銀行別項支店調べ、2016年11月以降の計数は不連続、前年同期(月)比 (%)。

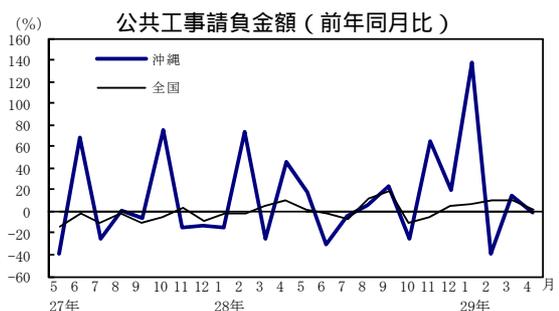
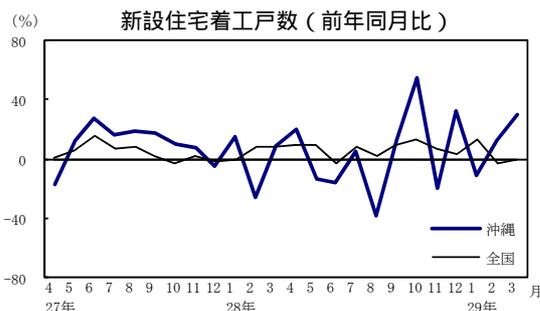
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

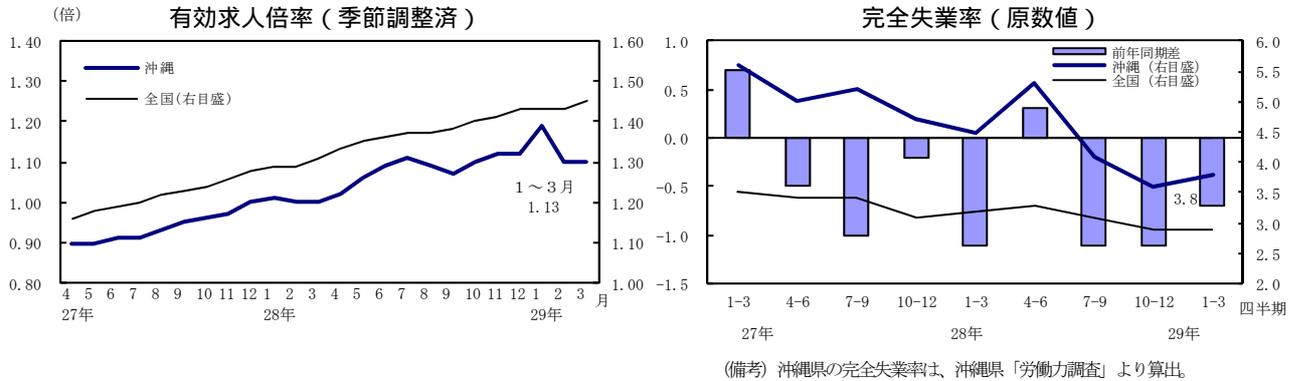


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

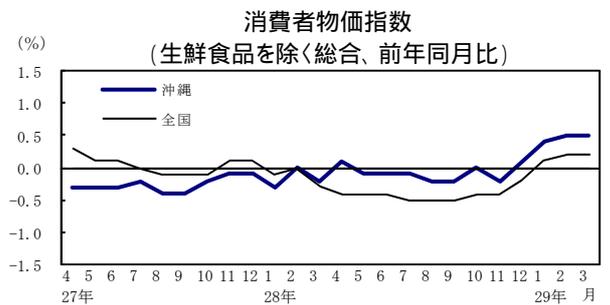
「3月と比較するとマイナス73件と若干件数は落ちているものの、1月から週平均1,000件超えを維持している。相変わらず、好景気が続いているものとみられる(求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円) %				
	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	12	6	9	20	3
(前年比)	0.0	▲ 66.7	▲ 43.8	33.3	▲ 40.0
負債総額	8	4	12	27	1
(前年比)	▲ 10.1	▲ 92.7	▲ 35.3	▲ 1.5	▲ 78.2



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・インバウンドの観光客が増えて、購入額も増えてきている (一般小売店 [靴・袋物])。

<先行き>

・住宅展示場への来場者数のうち、建築予定地確保の客の比率が60%と増えている (住宅販売会社)。

